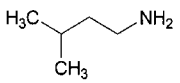
第2添加物の部D成分規格・保存基準各条の項イソプロパノールの目の次に次の1目を加える。

イソペンチルアミン

Isopentylamine



$C_5H_{13}N$　　分子量　87.16

Isopentylamine　［107―85―7］

含　　量　本品は，イソペンチルアミン（$C_5H_{13}N$）98.0%以上を含む。

性　　状　本品は，無～微黄色の透明な液体で，特有のにおいがある。

確認試験　本品を赤外吸収スペクトル測定法中の液膜法により測定し，本品のスペクトルを参照スペクトルと比較するとき，同一波数のところに同様の強度の吸収を認める。

純度試験　⑴　屈折率　n_D^{20}＝1.405～1.411

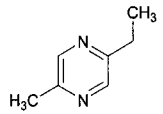
⑵　比重　0.747～0.753

定 量 法　香料試験法中の香料のガスクロマトグラフィーの面積百分率法の操作条件⑵により定量する。ただし，カラムは，内径0.25～0.53mm，長さ30～60mのケイ酸ガラス製の細管に，ガスクロマトグラフィー用ジメチルポリシロキサンを0.25～1μmの厚さで被覆したものを使用する。

第2添加物の部D成分規格・保存基準各条の項2―エチル―3―メチルピラジンの目の次に次の1目を加える。

2－エチル－5－メチルピラジン

2－Ethyl－5－methylpyrazine



$C_7H_{10}N_2$　　分子量　122.17

2―Ethyl―5―methylpyrazine　［13360―64―0］

含　　量　本品は，2―エチル―5―メチルピラジン（$C_7H_{10}N_2$）95.0%以上を含む。

性　　状　本品は，無～淡黄色の透明な液体で，特有のにおいがある。

確認試験　本品を赤外吸収スペクトル測定法中の液膜法により測定し，本品のスペクトルを参照スペクトルと比較するとき，同一波数のところに同様の強度の吸収を認める。

純度試験　⑴　屈折率　n_D^{20}＝1.491～1.501

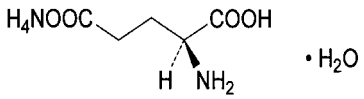
⑵　比重　d_{25}^{25}＝0.960～0.970

定 量 法　香料試験法中の香料のガスクロマトグラフィーの面積百分率法の操作条件⑴により定量する。ただし，カラムは，内径0.25～0.53mm，長さ30～60mのケイ酸ガラス製の細管に，ガスクロマトグラフィー用ポリエチレングリコールを0.25～1μmの厚さで被覆したものを使用する。

第2添加物の部D成分規格・保存基準各条の項L―グルタミン酸の目の次に次の1目を加える。

L－グルタミン酸アンモニウム

Monoammonium L－Glutamate



$C_5H_{12}N_2O_4・H_2O$　　分子量　182.18

Monoammonium monohydrogen (2*S*)－2－aminopentanedioate monohydrate　［139883―82―2］

含　　量　本品を乾燥物換算したものは，L―グルタミン酸アンモニウム（$C_5H_{12}N_2O_4・H_2O$）99.0%以上を含む。

性　　状　本品は，無～白色の結晶又は白色の結晶性の粉末である。

確認試験　⑴　本品の水溶液（1→200）を検液とする。別にL―グルタミン酸ナトリウム溶液（1→200）を対照液とする。検液及び対照液をそれぞれ1μlずつ量り，1―ブタノール／水／酢酸混液（2：1：1）を展開溶媒として薄層クロマトグラフィーを行い，展開溶媒の先端が原線より約10cmの高さに上昇した時展開をやめ，風乾する。更に80℃で30分間乾燥した後，ニンヒドリン溶液（1→500）を均等に噴霧し，80℃で10分間加熱して呈色させ，自然光下で観察するとき，検液から得たスポットは，対照液から得た赤紫色のスポットと色調及びRf値が等しい。ただし，薄層板には，担体として薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを110℃で1時間乾燥したものを使用する。

⑵　本品は，アンモニウム塩の反応を呈する。

純度試験　⑴　比旋光度　［α］$_D^{20}$＝＋25.4～＋26.4°（10g，塩酸（1→6），100ml，乾燥物換算）

⑵　液性　pH6.0～7.0（1.0g，水20ml）

⑶　鉛　Pbとして2.0μg／g以下（5.0g，第1法）

⑷　ヒ素　As_2O_3として2.5μg／g以下（0.80g，第1法，装置B）

⑸　ピロリドンカルボン酸　本品0.50gを量り，水に溶かして100mlとし，検液とする。別にL―グルタミン酸ナトリウム0.50g及びピロリドンカルボン酸2.5mgを量り，水に溶かして正確に100mlとし，対照液とする。検液及び対照液をそれぞれ2μlずつ量り，1―ブタノール／水／酢酸混液（2：1：1）を展開溶媒として薄層クロマトグラフィーを行い，展開溶媒の先端が原線より約10cmの高さに上昇したとき展開をやめ，風乾し，更に120℃で30分間加熱して溶媒を除く。次亜塩素酸ナトリウム5mlの入った50mlのビーカー及びこの薄層板を，別の展開用容器に入れる。このとき，薄層板のガラス面をビーカーに向けるように入れる。ビーカーに塩酸約2mlを静かに加えて塩素ガスを発生させ，展開用容器にふたをして20分間放置する。薄層板を取り出し，10分間放置した後，エタノールを均一に噴霧し，風乾する。ヨウ化カリウム・デンプン試液を噴霧し，自然光下で観察するとき，検液には，対照液のピロリドンカルボン酸と同位置にスポットを認めない。ただし，薄層板には，担体として薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを110℃で1時間乾燥したものを使用する。

乾燥減量　0.5%以下（50℃，4時間）

強熱残分　0.1%以下（800℃，15分）

定 量 法　本品約0.15gを精密に量り，以下「L―アスパラギン」の定量法を準用する。

0.1mol／L過塩素酸液1ml＝9.109mg　$C_5H_{12}N_2O_4・H_2O$

第2添加物の部D成分規格・保存基準各条の項ケイ酸カルシウムの目の次に次の1目を加える。

ケイ酸マグネシウム

Magnesium Silicate

Magnesium silicate　［1343―88―0］